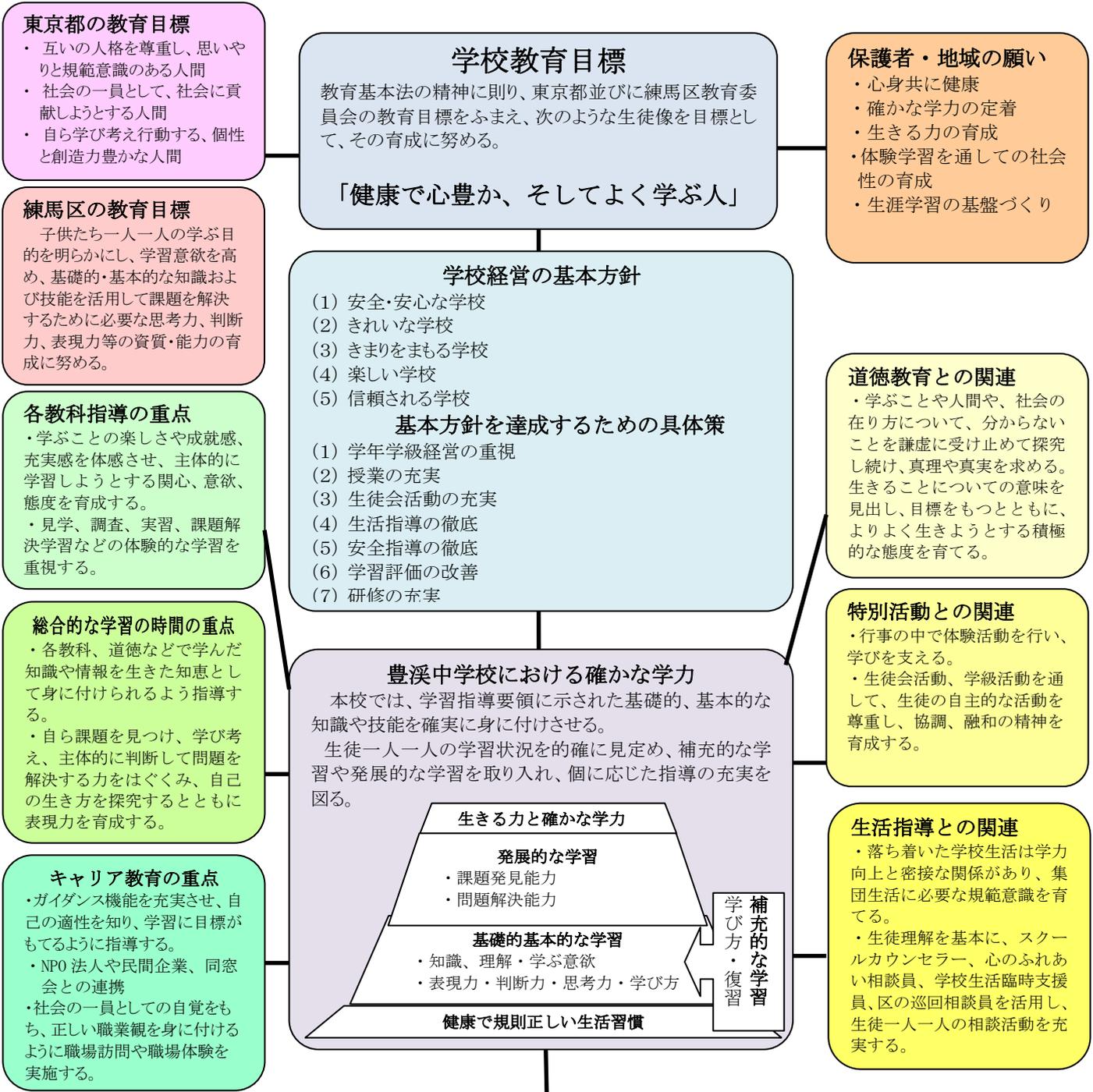


学力の向上を図るための全体計画



授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫と学びの支援	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ICTの積極的な活用。 実験や実習を多く取り入れた授業を展開し、学習意欲を高める。 数学、英語科において少人数指導の実施。 夏季休業中に学力補充教室を開設する。 放課後の学習支援教室(K中ベーシック)や11月以降に入試に向けた補習(K中ゼミ)を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の精選、道徳、総合的な学習の時間を計画的に実践し1単位時間50分の授業を標準時数を超えて確保する。 時間割の組み換え振替を積極的に行い、自習の時間を極力減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材・教具(ICT)の工夫を通じて「生徒が満足する授業」のための研究授業を実施する。 課題改善カリキュラムの活用と見直しを通じて、指導課題の明確化と指導方法の改善に努める。 小中一貫教育研究グループの授業研究を通じて9年間を見据えた新たな課題改善カリキュラムを作成につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の評価規準、基準を見直す。 観点別評価から評定に至る総括方法についての共通理解を図り、評価に対する客観性、信頼性を高める。 生徒、保護者による授業評価を行い、授業改善に資する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の面談を通して規則正しい生活習慣や家庭学習の定着を図る。 職場体験活動や地域の祭「広場の祭典」にボランティアとして生徒を積極的に参加させる。 NPO法人や民間企業、同窓会と連携したキャリア教育を推進する。(ライフプランニング等)